

2019年10月9日(水)

老球の細道504号

## 2019年度「トップアスリート教室」スタート 会津バスケットボール協会 室井 富仁

JBAの大改革により各カテゴリーの行事が増加する中で、開催が危ぶまれた会津バスケットボール協会独自の「トップアスリート教室」が何とかスタートすることができた。先日第4回を終了し、半分のスケジュールを消化した。受講者は昨年度から比べると大幅に減少し50名前後(毎回参加者が増減)となった。

今年度の受講生は全体的にスキルのレベルとモチベーションが高い。受講生にはリピーターが多く、ミニから高校まで、ミニから中学校3年生まで毎年のように参加している受講生が多いことからもうかがわれる。何事も継続は力なりである。

「トップアスリート教室」のスタート時は中学生の普及、強化にあった。最初の頃の中学校受講生は、その後全国大会、国体県選抜選手、Bリーグプロ選手などに成長してくれた。最近では、残念ながら中学生の参加が寂しい。その反面、高校生とミニ5年生の参加が増加していることは喜ばしい。ファンダメンタルはミニから日本代表まで皆共通である。

講師として協力してくれるコーチングスタッフも増加し、20、30、40、50代、そして還暦世代とバランスよく構成されている。特に好齢者の松井遵一郎先生、鈴木新氏、二瓶誠二氏の「坂下ビッグ3」は、ヘミングウェイ著『老人と海』の心意気を示して若い指導者に大いなる刺激を与えてくれている。

今年度はチームファンダメンタルからスタートして、バスケットボールのチームオフenseの全体像を把握し、その中に含まれる1:1の基本的な個人技、スクリーンプレイのコンビネーションプレイを練習して、最後にオールコートでの展開でまとめるという流れで実施している。今までの10回から8回に開催回数が減少したので、スキル、プレイ、ドリルの絞り込みに「ハーキュリー・チョイス」を感じるが、受講生のモチベーションとスキル力が例年になく高いので、私たち講師陣も燃えている。

特にすごいのは、各カテゴリーで毎週のように大会、DC、練習試合などのある中、疲れも見せないで、それらの行事が終了後トップアスリート教室に集まってくれることである。並々ならぬ意欲に感動させられる。あるミニバスチームの6年生達は土曜日に「謹教ミニバス教室」で私のクリニックと練習ゲームを1日こなし、翌日の日曜日は「坂下バンビカップ」で同じようにクリニックと練習試合をこなして、休む間もなくトップアスリート教室に参加するハードワークを成し遂げてくれた。保護者の協力もすごい。

現在の会津地区バスケットボールに必要な3つのキーワードがある。①状況判断 ②コンタクト ③コミュニケーションである。状況判断は、特に能力だけでプレイしている選手に必要な要素である。状況をよく見て(認知)、適切な判断をし、実行する。コンタクトは、日本のバスケットボールが世界的に劣る要素で、そっくりそのまま会津地区のレベルにも共通することである。ラグビーのコンタクトを見ていると雲泥の差を感じる。コミュニケーションは永遠の課題である。スポーツはコミュニケーションスキルを高める有効なツールなのだが、ステイブン・セガールの映画題名になりそうな『沈黙のバスケットボール』を演じているチームがまだまだ盛りだくさん。

後半残り4回。参加者には消費税10%のポイント還元につけられないお得感を提供したい。